

2015 年度活動報告 交換授業：レギュラー3-1（文法・読解・漢字）

蔭山 拓（関西学院大学日本語教育センター）

西村 由美（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

中級前半の学習者を対象とした、週2コマのクラス（同レベル2クラス並行）である。クラスの目標は、①中級前半レベルの語彙・表現を用いた文章が理解し、②同語彙・表現を使って自分の考えを話したり書いたりできるようになること、そして、③同レベルの漢字（約150字）を学ぶ¹、の3点である。漢字については、漢字語彙として聞いて・見て意味が分かることを第一の目標とした。使用教材は、『改訂版 トピックによる総合日本語演習（中級前期）』およびそれを基に担当者らが作成した補助教材（ディスカッショントピック・シート、復習クイズ、漢字練習シート等）である。

2. 授業内容

各課、本文を基に、大きく以下の①～⑫の学習活動の一つのユニットとする。①テーマに関するウォーミングアップおよび本文の言葉の理解、②本文へのコメント書き込み（宿題）、③本文の内容確認、④音読練習、⑤コメントの交換とその過程で生じる様々な疑問・感想・意見に関する話し合い（ピアワーク）、⑥本文テーマに関連する所定のトピックについてのディスカッション（ピアワーク）、⑦本文およびディスカッションを踏まえたレポートの作成（宿題）、⑧文法表現の用法練習、⑨漢字語の読みと意味の学習、⑩本文の復習クイズ、⑪コメントシートおよびレポートのフィードバック、⑫添削後のレポートの読み聞かせ合い（ピアワーク）。そして、以上の学習活動を通して、①当該テーマに関する書記ならびに口頭言語の受容と産出両面の言語活動従事経験の積み重ねと、②同活動従事に必要・有用な言語事項（語彙や表現など）の習得を図る²。

3. 成果と今後の課題

期末アンケートの学生評価は、2クラス間およびクラス内でも幅があった。蔭山クラスでは、授業活動全体としては概ね高評価であったが、学習内容が簡単すぎるとの意見が多かった。一方、西村クラスでは学習内容よりも、学習方法について賛否両論があった。前者については、学習者の日本語力に応じた本文（テキスト）の選択が、そして後者については、学習方法に関する丁寧な説明・指導が今後の課題であると考える。

¹ 漢字の表記の学習については、学習者個々の学習目的に応じて指導。

² 教育の原理として、バフチン（1985-1975）の対話原理を基にした西口（2013）のSMTアプローチや、内容中心の教授法CBIなどの言語観・言語学習観を参考に考案。本校では、インテンシブ4Aの文法・読解クラスにおいて過去4学期にわたって実践・改善を重ねている。今期はそれを基に、レギュラー3-1対象の本文を選択し、漢字学習を加えるなどのアレンジをした。